

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00630

研究課題名（和文）怒りと悪の表象と源流 - 飛鳥、奈良、平安初期の世界像と邪悪表現の多義性の研究

研究課題名（英文）The Representation of Wrath and Evil: Conceptions of the World and Expressions of the Wicked and the Converted in Ancient Japan

研究代表者

BOGEL CYNTHIA (BOGEL, CYNTHIA)

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：50637931

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,100,000円

研究成果の概要（和文）：本課題は仏教への過渡的帰依者たる異人を表象する邪鬼や蛮族及び須弥山コスモロジー等に関する研究である。殊に薬師寺金堂薬師三尊像と関西地方における関連作品を対象とし、新たな着眼点として本尊台座表徴を人型・ハイブリッド神・四神をイデオロギー枠に分析した。その成果はハーバード大学ライシャワー日本研究所での古代日本における帝國的制度と仏教美術表象に関する草稿に結実した。さらに法隆寺・大安寺・薬師寺等、白鳳から奈良時代初期の寺院における思想と芸術表象の変化また前世紀の古墳壁画との関連を考察し、ハーバード大学等欧米著名大学及び神戸大学等でワークショップや招待講演を行い、日英仏語論文として広く発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題は、古代の世界観が造形におけるモチーフやコスモスケーブ（本研究では、この語を造形的に表現された世界観という意味で用いる）を通して表現されていることを検証した。中でも、仏教寺院における須弥山のような世界観の表象と機能について、7～8世紀の日本で制作された台座を例に邪悪表見とその援用に関連する表象などの観点から分析した。また、薬師寺薬師如来像台座の図像分析を通じ、周辺と中心、宗教・支配者・臣民の関係など、帝國的イデオロギーとのかかわりを明らかにした。これらの研究成果は、日本古代宗教史の総合的解釈のための基盤を築き、古代仏教史、日本書紀、ヤマト王権に関する新しい論点を開拓するものである。

研究成果の概要（英文）：The project examines Buddhist representations of demonic beings and _banzoku_ (lit., savages), contributing to our understanding of world views from an imperial center as depicted on selected 7th-8th c. icons. Midway through the project an innovative approach to interpreting the Healing Buddha _honzon_ pedestal at Yakushiji, Nara, developed. Results were published in English and French (2018, 2019, 2020) and Japanese (forthcoming), also at workshops and invited lectures in Europe, the US, and Japan. Portions of a book manuscript were drafted at Harvard's Reischauer Institute for Japanese Studies in 2022. The book traces imperial and personal cosmologies made legible on Buddhist icons (documented or surviving) at Horyuji, Daikandaiji, Yakushiji, and others. The Yakushiji icon's imagery draws from an idealized past and present, the base a "cosmoscape" of symbols: a Sinic imperium, right rule, Mt. Sumeru, and Buddhism---a fascinating _imaginaire_ with key parallels to the 720 _Nihon Shoki_.

研究分野：仏教美術史と視覚文化

キーワード：仏教美術史 薬師寺 奈良時代 飛鳥時代 天皇制度 邪悪表現 政治的意図

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

本研究で「邪悪表現」という言葉を用いる場合、西洋美術史における「テリビリタ」の概念や、恐れ、驚き等を惹起する、奇異・醜悪・異国的風貌・半人身の鬼や邪鬼等の表現を指す。なお、表現の邪悪さが、必ずしもその形象が果たす機能や意図の邪悪性を示すわけではない。仏像仏画、神像、考古学的或いは建築的遺物遺構における鬼や悪鬼は研究分野ごとに様式研究等の蓄積がある。しかし分野を横断した改心悪鬼・邪悪表現・異国的風貌などの研究は看過されてきた。そもそも邪悪表現が表す意義は真に考察されてきただろうか。仏教では、恐ろしげな外観が複数の意味を持ちうる。守護の力を象徴するものとしては、例えば興福寺八部衆のような修羅道の造形、聖武天皇を守護する東大寺法華堂執金剛神、政庁又は仏堂などを守る鬼瓦もある。厄災的存在が改心した姿を示す例としては、如来菩薩を護持の役割も持つ眷属羅刹夜叉がある。改心後であっても、牙や半獣身・卷毛・濃い肌色のような異形表象はテリビリタを惹起する。改心以前の異教徒の劣等性を表す例として、四天王足下の邪鬼を挙げるができる。また、人に近い怒りの表象は神像に見られる。典型的例が忿怒天部だろう。この忿怒天部は中世の穏やかな神と異なり、古代的神性を示す。九州由来の軍神・八幡は荒ぶる神と看做されていたはずだが、守護神として東大寺に赴いて以降は、仏教のイデオロギーが反映された僧形八幡の姿で表現されることになる。この場合の悪鬼等の形象は、仏教より劣る信仰や宗教の象徴表現である。

本研究課題を実施する前提として、代表者は8世紀の四天王像、古密教の教義に基づく仏像（東大寺、大安寺、唐招提寺、その他）についての研究を行い、最初の著書で空海と最澄関係の日本と唐の密教視覚文化、教王護国寺、金剛峯寺、神護寺、延暦寺、安祥寺、観心寺の仏像と仏画とそれに対する儀礼、歴史に関する内容を取り扱った。

邪悪表現は多様な媒体、コンテクストに偏在する。邪鬼や悪鬼の表象が担うイメージや源泉が多岐にわたるとしても、何故その表現（奇異・異国的・混成的）が特定の時空で選ばれたかの意義は問われるべきである。邪悪表現の含意こそ本研究で問われる核心であって、それには時代や場所や個人の信仰や社会的背景の解釈は欠かせない。従来初期仏教美術史研究の多くは、慈悲深い仏陀・菩薩表現に関するものであり、四天王など恐怖心を惹起する形象が対象となる場合は、その様式解釈や比較に終始しがちであった。翻って本研究では鎮護国家に象徴的に用いられた邪悪表現や、善悪の両義性を備えた悪鬼等が示す外観の意義に焦点を当てることにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、従来看過されがちであった悪鬼、薬叉、十二神将などの表象を、特に台座や光背に着眼して分析し、そこにいかなる世界観が表されているのかを明らかにすることにある。国内外から参集した分担・協力者で企画するシンポジウムや出版を通じ、日本古代史研究に多角的な視点と刺激をもたらすことを目指した。本研究が有する独自性は宗教的美術表象研究の分野にかつてなかった邪悪表現に特化した視座をもたらすことにある。本研究で邪悪表現に着眼することも、当該分野に資する有意義なものである。仏像が本研究の中心だが、仏画を参照することで一層広範な観点からとらえることになった。

3. 研究の方法

我々は、自分自身を多様な方法で特定の世界観の中に位置づけている。例えば現象的には周囲の環境の中で自分の身体を理解し、地図的には地球上の位置を測り、想像的には自分が信じ

る場所や生まれ変わりを経験したい場所、為政者として統治したい場所との関係で自分の位置を確認するなど、さまざまな方法で自分の、心理的、物理的位置を確認する。これが、世界観を論点とする本研究課題の「コスモスケープ (cosmoscape)」という言葉の根拠となっている。本研究では、一見すると仏教的ではないと思われるモチーフや図像、またはその集合体としての造形についても分析対象とし、解釈を試みた。

いかなるテキスト（仏典や歴史的史料）も、この研究やモチーフやアイコンの理解から除外されることはない。芸術的な表現はテキストと連動し、テキストは表現と連動して、アイコンやそのモチーフの目的や意味を解釈するのに役立つからである。例えば、風字型龕内の異形 12 人物を描いた薬師寺金堂の薬師如来像台座の場合、玄奘訳の『薬師経』に説かれる鬼や盧山に関する用語を抽出・分析した。同経には、大衆に説法する菩薩、王、大臣、バラモン、僧侶、天龍、薬叉、人間、非人など、3 万 6 千人が登場する。次いで、血肉を食らい邪な呪術を実践する人間たちが祀る薬叉に言及した上で、薬師如来によって薬叉が改心する可能性がほのめかされる。そして、薬師十二神将が、「薬師如来の名を聞いたからには、彼を敬い奉る者を護衛しよう」と如来に誓うことで、『薬師経』の教えを護持する者は誰でも、十二誓願の功德によって、悪や災厄から解き放たれ、救済がもたらされることになる。

台座には、四神と葡萄の唐草模様が描かれることで「皇室の善政と豊穰」を表し、天皇が蛮族のような国境の危険から私たちを守ってくれていることを示す象徴的モチーフが描かれている。つまり、現世の「他者」を唐の制度が要求する異分子（主に朝鮮半島出身者や知識人、中国皇帝から与えられた奴隷や蛮族）として表現することで、天皇の秩序に組み込もうとするものである。このような解釈は、薬師三尊や『薬師経』が表す仏教的意味を消し去るものではない。むしろ、それらは仏教に期待された王権護持の機能と深く結びついているのである。

4. 研究成果

1 年目～3 年目（2018～2020 年度）は、調査対象関連書物の読み込みと関連史料の悉皆的な収集を通じた精密な個別作品研究に取り組んだ。本研究の分担者である知足美香子（九州大学芸術工学研究院；彫刻師、山岳宗教）および連携研究者である井形進（九州歴史資料館）と古代宗教、文学仏教美術史、古代古墳壁画における邪悪表現（守護、潜在害、改宗など）の詳細な議論を行った。また海外連携研究者ハーバード大学ユキオ・リピット、コロンビア大学デービッド・ルーリー、梨花女子大学キム・ヨウンミと 3 年目に開催するワークショップの打ち合わせ及び討論、調査を行った。調査と学会発表をソウル、ボストン、シアトル、チューリヒ、ゲント、ハイデルベルグ、東京、北九州、関西で行った（一か所は知足も参加）。ボーゲルはハイデルベルグ大学とハーバード大学より 2020 年の客員教授として招待を受けた。また、2018 年度に本研究課題の成果として、以下の 3 つの国際的な研究発表と講演を行った。①CAA（於：New York、世界最大規模の美術史学会の College Art Association Annual 2018 Conference）にて研究発表、②Eurasian Connections 2018 Annual Conference（於：New York University 上海校）にて研究発表、③University of California, Los Angeles 校 / UCLA）にて招待講演（Annual Shinto Lecture, Invited Lecturer）。執筆として 2019 年度には『Journal of Asian Humanities at Kyushu University』に井形進氏の古代鬼瓦についての日本語の論文を DeWitt L. 氏と翻訳した「Demon Roof Tiles: A Study of the Dazaiфу Type Onigawara Style I-A」（19 ページ）が、2020 年度には 4000 字の書評英文ジャーナル『Monumenta Nipponica』とその他が掲載された。2019 年度は新型コロナウイルス蔓延防止のため渡航制限がありキム教授との中国・韓国での海外調査が叶わなかったが、オンライン会議で複数回議論した。2020 年

8月には、Association of Asian Studiesのオンライン学会「Demons and Gods on Display: The Pageantry of Popular Religion as Crossroads Encounters」にパネル討論者として参加した。2020年2月にはフランスで最も権威のある美術史専門誌『Perspective-Actualité en histoire de l'art』の日本美術史特集に薬師寺台座に関する論文が仏語で掲載された。本論文が本研究の成果が公刊された初の場となった。薬師寺本尊台座に関する研究・調査をさらに深め、編集を加えた「歴史と信仰の枠組み：薬師寺本尊の台座再考」と題する日本語論文の執筆を続け2024年出版を予定している。上記論文の構成を組み立て直し、さらにチャプターを追加した中国的天皇制度の表象をテーマにした学術書の執筆も継続して進めている。

「怒りと悪の表象と源流」について、本研究課題の分担者・知足美香子は、「災害と恵みをもたらす自然」に対する古代日本の世界観に端を発すると考えた。そこで中世より始まった山岳修験道の信仰観と表象に着目し、大峰修験、英彦山修験に関する踏査を行った。修験道における自然信仰は、自然現象の動的なあり方に、悟りにいたる過程や仏教思想を重ねている。この調査研究の結果、自然の破壊力および水や森の恵みを融合する超越的存在を憤怒像に表象していると理解された。知足の研究成果については、ボーゲルの研究成果とともに本報告の最後に記す。

調査の読み込みと史料収集に際して薬師寺薬師如来台座モチーフとその他本研究に有益かつ影響的であった出版物は、賛否はともあれ、次のようにまとめられる。安藤佳香『佛教荘嚴の研究：グプタ式唐草の東伝』、浅湫毅1993年「薬師寺金堂本尊台座の異形像について」、百橋明徳と宮島一彦の古墳の研究、花谷浩の考古学の研究、林良一の葡萄唐草文の研究、町田甲一1984年『薬師寺』、田中恵の大安寺の研究、戸花亜利州の2009年、2006年、2002年薬師三尊像の論文、英文書籍におけるトクイル・ダシーとコロンビア大学のデービッド・ルーリー教授(連携者)のものである。

3-5年目(2020~2022年度)に注力したのは1)薬師如来台座についての論文完成(論文集への採択確認待ち)、2)書籍原稿の執筆である。特に次に挙げる3人の著者の論文やディスカッションが殊に刺激のかつ生産的なものとなった(本研究とは異なる視点からの着想、着眼に刺激を受けたものであり、同意に限定しない)。まず長岡龍作氏の2021年『法隆寺と奈良の寺院：飛鳥・奈良時代1』の論文と2005年「仏像荘嚴にあらわれる墓モチーフに関する調査研究科研報告」である。次に内藤栄氏の2015年奈良国立博物館図録の『白鳳：花ひらく仏教美術：開館120年記念特別展』と2015年論文「薬師寺縁起金堂条における流記引用について」。そして藤岡穰氏の奈良国立博物館での2019年シンポジウムと2020年論文「様式・技法・金属組成からみた興福寺と薬師寺の古代金銅仏」と2020年『東アジア仏像私論』である。

以上のものと奈良文化財研究所の薬師寺発掘調査報告も、外国人研究者としては読み通すに苦労があったが、彼らの重要な研究に多大な恩恵を被った。国内の調査では資料となる調査結果や専門知識を得ることができた。研究成果で述べた論文のほかMechtild Mertz, Suyako Tazuru, Shiro Ito, Cynthea 共著の12世紀初期の神道と神、仏との関係に関する研究報告が「A Group of Twelfth-Century Japanese Kami Statues and Considerations of Material Intentionality: Collaborative Research Among Wood Scientists and Art Historians」として『Journal of Asian Humanities at Kyushu University』第7号(2022年3月)に掲載された。また、国際学会において3回パネルのコーディネーターと討論者、パネルのチェアと発表、パネル発表をした。連携研究者のニューヨーク大学美術史研究院・沈雪曼准教授とはハーバード大学到着後に本研究のトピックについて打ち合わせを行った。

非常に意義のある進展として、2022年2月よりハーバード大学ライシャワー日本研究所で11ヶ月客員研究員として過ごし、そこでユキオ・リピット教授から直接本研究のテーマに関連した専門知識、助言を得られた。また同大学日本宗教史の阿部龍一教授からの助言も取り入れることができた。

1月に一時帰国したが、3月16日に米国に戻って『正倉院：新研究』と題した国際学会がハーバード大学で開催された。これはハーバード大学リピット教授と2022年3月4日に開催した『日本の前近代視覚文化』ワークショップの「正倉院文庫と8世紀における天皇制の表象」のテーマを引き継ぐもので、この年度に国際学会をリピット教授と共催し、各所属大学にて発表を行った。正倉院と東大寺に焦点を当て、大仏の蓮華台座須弥山のモチーフ、大仏下の鎮壇具などを多様な角度から分析した。また薬師寺台座、特に天武天皇と持統天皇と聖武天皇の庇護の比較、中国的天皇制度、芸術表現を本研究対象の薬師寺台座の歴史とモチーフとの関連を調査した。

奈良・薬師寺の薬師三尊像をめぐる新しい論点は、台座に描かれた人型や想像上の人物、四神などのモチーフが、中心と周辺概念、宗教・支配者・主体の関係性を持つ新たな帝國的制度を構築する重要だが見過ごされてきた思想の表現であると理解するものである。台座には人型やハイブリッド、四神、葡萄唐草などが描かれており、本尊が8世紀初頭の奈良のものなのか、それとも藤原京にあった最初の薬師寺（現在は元薬師寺と呼ばれている）から移されたものなのか、未だ研究者間でも議論があるが、ボーゲルは、薬師寺本尊は奈良薬師寺のために作られたとする見解を支持する。台座のモチーフは、元薬師寺の守護神である天武天皇が妃である持統天皇のために創建したと同時に、「二つの首都をまたぐ」モチーフとなっており、奈良薬師寺の台座モチーフは、私が「コスモスケープ」と呼ぶものを体現している。薬師寺本尊は、同時代の『日本書紀』記述と併せて、8世紀の新しい奈良の都の大寺院における製作者の世界観が、『日本書紀』720年当時の大和王権思想と同じであることを示す評価されざる証拠である。草稿では、台座や光背のような彫刻の構成要素の役割についても記すが、それらは世界観、つまり信念やイデオロギーを表現するための空間として理解される。『日本書紀』には、斉明天皇が、612年に百済の渡来人、657年には飛鳥寺の西に吐火羅からの渡来人のために、659年には蝦夷のために甘檜丘に立体的な須弥山を造ったことが記されている。7世紀の法隆寺の仏像台座や玉蟲厨子にも、仏教又は発願者の宇宙観や仏教と共存する信仰が描かれており、『日本書紀』にあるような7世紀の立体的な須弥山は、8世紀初頭薬師寺如来の台座の如く宗教的、文化的、政治的な要素を兼ね備えたコスモスケープとして理解することができる。8世紀半ばの東大寺盧舎那仏像台座は、蓮華座の上に須弥山のコスモロジーが描かれている。奈良薬師寺の須弥山形である台座（須弥座）は、時系列的に7世紀の法隆寺と8世紀の東大寺の台座の間に位置するのである。

新型コロナウイルスの影響もあったが、発表と独自の調査を基に日本語論文執筆と研究を続け、代表者がハーバード大学ライシャワー日本研究所滞在中に、古代日本における帝國的制度と仏教美術表象に関する草稿として結実した。さらに、法隆寺、大安寺、薬師寺など、白鳳から奈良時代初期の寺院における思想と芸術表象の変化また前世紀の古墳壁画との関連を考察し、ハーバード大学、エジンバラ大学等欧米の有力大学及び神戸大学等でワークショップ、学会発表、招待講演を行い日英仏語論文として成果を広く発信した。2023年1月に提出した論文「歴史と信仰の枠組み：薬師寺本尊の台座再考」は2024年に出版予定である。論文掲載に続き薬師寺本尊台座に関する研究、調査を更に深めた原稿を2024年に出版予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 4件／うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Mertz, Mechtild, Tazuru Suyako, Ito Shiro, and Cynthia Bogel	4. 巻 7
2. 論文標題 "A Group of Twelfth-Century Japanese Kami Statues and Considerations of Material Intentionality: Collaborative Research Among Wood Scientists and Art Historians"	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Asian Humanities at Kyushu University (JAH-Q),	6. 最初と最後の頁 127-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Cynthea J. Bogel	4. 巻 2020
2. 論文標題 "Un cosmoscape sous le Bouddha : le piedestal de l'icone principale de Yakushi-ji, soutien de l'empire des souverains", La Tribune de l'art dans Japon	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Perspective : actualite en histoire de l'art	6. 最初と最後の頁 141-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4000/18208	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Cynthea J. Bogel	4. 巻 75.1
2. 論文標題 書評論文 Review of "Word Embodied, The Jeweled Pagoda Mandalas in Japanese Buddhist Art" by Halle O'Neal.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Monumenta Nipponica	6. 最初と最後の頁 333-341
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Bogel, Cynthea J.	4. 巻 301
2. 論文標題 "Daigoji Temple. A Shingon Esoteric Buddhist Universe in Kyoto." Exhibition Review in English	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Korean Journal of Art History 美術史學研究	6. 最初と最後の頁 101-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cynthea J. Bogel	4. 巻 301
2. 論文標題 Daigoji Temple: Shingon Esoteric Buddhist Universe in Kyoto	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Misulsahak Yongu 美術史學研究 (韓国)	6. 最初と最後の頁 101 - 103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31065/ahak.301.301.201903.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Cynthea J. Bogel	4. 巻 38
2. 論文標題 Cosmoscapes: Interpreting Buddhist Imagery in Ancient Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 CENTER 38, National Gallery of Art, Center for Advanced Study in the Visual Arts	6. 最初と最後の頁 59 - 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Igata Susumu, Translation Cynthea J. Bogel	4. 巻 4
2. 論文標題 Demon Roof Tiles: A Study of the Dazaifu Type Onigawara Style I-A	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Asian Humanities at Kyushu University (JAH-Q)	6. 最初と最後の頁 109 - 125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 知足 美加子	4. 巻 62
2. 論文標題 「廃仏毀釈の影響を受けた英彦山修験道美術における復元的考察 一 豪潮宝篋印塔、三所権現御正体、不動明王立像一」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本山岳修験学会 『山岳修験』	6. 最初と最後の頁 49-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計11件(うち招待講演 4件/うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Cynthea Bogel
2. 発表標題 Buddhist Materialities in Premodern Japan
3. 学会等名 United Kingdom Buddhist Studies Association conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Cynthea Bogel
2. 発表標題 The Demonic, Converted, Hybrid, and Foreign: "Cosmoscapes" Beneath the Buddha and the Construction of a Chinese-style Imperial State
3. 学会等名 American Academy of Religions Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Cynthea Bogel
2. 発表標題 Beings and being in this world: Repossessing malevolent spirits and human agency in early medieval Japan
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Cynthea Bogel
2. 発表標題 "Demons and Gods on Display: The Pageantry of Popular Religion as Crossroads Encounters"
3. 学会等名 AAS-in-Asia (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Bogel, Cynthea J.
2. 発表標題 “Japanese Prints (ukiyo-e 浮世絵) and Dong Ho Painted Prints in a Comparative Light.” (英語)
3. 学会等名 THE SAFEGUARDING AND PROMOTION OF DONG HO WOODBLOCK PAINTINGS IN CONTEMPORARY LIFE (venue: Vietnam) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Bogel, Cynthea J.
2. 発表標題 Transmission and Talisman in Ancient Buddhist Visual Culture
3. 学会等名 College Art Association Conference, New York (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Bogel, Cynthea J.
2. 発表標題 Heritage Values, Policies, and the Crafting of Impermanence: Japan's National Treasure System
3. 学会等名 World Social Science Forum (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Bogel, Cynthea J.
2. 発表標題 Imagery ca. 700 Japan: Cosmospaces of Rule and Religion
3. 学会等名 UCLA (Los Angeles), Invited Annual Lecturer for the Annual Shinto Lecture (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Bogel, Cynthia J.
2. 発表標題 Cosmoscapes and Hybrid Traces on an Eighth-century Japanese Buddhist Icon
3. 学会等名 EuroAsian Connections. NYU-Shanghai, China (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 知足 美加子
2. 発表標題 「英彦山修験道における自然信仰と森林文化再考－鬼杉落枝と千本杉による不動明王像制作－」
3. 学会等名 日本山岳修験学会「第42回日本山岳修験学会」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高千穂有昭（英彦山神宮禰宜）、知足美加子（九州大学芸術工学研究院教授）、渡辺敦史（九州大学農学研究院教授）、清水邦義（九州大学農学研究院准教授）
2. 発表標題 「英彦山と杉 －《鬼杉不動》制作報告・参拝－」
3. 学会等名 「英彦山と杉 －《鬼杉不動》制作報告・参拝－」（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Bogel, Cynthia J., Carter, Lazarus, Schweizer, Van Goethem. Editors	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Kyushu University	5. 総ページ数 123
3. 書名 Journal of Asian Humanities at Kyushu University vol. 5	

1. 著者名 Bogel, Cynthea J. and multiple authors	4. 発行年 2019年
2. 出版社 The Gioi Publishing House	5. 総ページ数 400
3. 書名 Selected Essays on Dong Ho Woodblock Printings	

1. 著者名 Cynthea J. Bogel, Editor	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Kyushu University	5. 総ページ数 125
3. 書名 Journal of Asian Humanities at Kyushu University	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>研究分担者作品 知足美加子, 彫刻「朝倉龍」第92回国展 (国立新美術館), 2018年 第92回 国展 (国立新美術館) 審査あり 知足美加子, 彫刻「花開童子と福太郎童子(吉木の山桜)」, 2019年 第93回 国展 (国立新美術館) 審査あり 知足美加子, 彫刻「鬼杉不動」, 2022.年 英彦山神宮 (パブリックコレクション), 審査なし 知足美加子, 彫刻「拈華微笑」, 2021年 第95回国展 (国立新美術館) 審査あり</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	知足 美加子 (Tomotari Mikako) (40284583)	九州大学・芸術工学研究院・教授 (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Premodern Visual Culture in Japan Workshop	開催年 2022年～2022年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------